

決議案第 4 号

「公立高等学校配置計画案（令和4年度～6年度）」の見直しについて

別紙のとおり決議案を提出する。

令和 3 年 6 月 2 5 日提出

提出者議員	宮 下	透
賛成者議員	池 島	和 行
〃	武 田	貞 行
〃	平 野	義 文
〃	峯	泰 教
〃	日 向	清 一
〃	山 田	靖 廣
〃	猪 口	満 雅

「公立高等学校配置計画案（令和4年度～6年度）」の見直しを求める決議

北海道教育委員会は6月1日、「公立高等学校配置計画案（令和4年度～6年度）」を公表し、空知南学区については欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮して、岩見沢市内において再編整備を含めた公立高校全体での定員調整の検討が必要との理由で、令和6年度に岩見沢東高等学校において1学年5学級を1学級削減するとしている。

岩見沢東高等学校は、平成21年度から北海道教育委員会の「医進類型指定校」の指定を受け、本道の地域医療を担う医師不足の問題に対応した高校であり、各地の医療機関において活躍する人材を輩出している極めて存在意義の高い高校であり、さらに、月形高等学校・夕張高等学校といった地域連携特例校の連携協力校として両校をサポートするなど、空知の高等学校教育の中心校として高い教育環境の維持が求められている。また、ほぼ例年募集人数に相応する出願者数で定員を満たしてきている。

平成30年3月に北海道教育委員会が策定した、「これからの高校づくりに関する指針」においても、従前の考え方同様に「望ましい学級規模を4～8学級とし再編整備を進める」としているが地域の実情や要望を全く踏まえたものとなっていない。

「配置計画」で志望校の間口が減ったために他校を受験せざるを得なくなった生徒など、地元の高校を奪われた子どもたちは、遠距離通学や下宿生活等を余儀なくされ、精神的・身体的な負担が増大するとともに、保護者もまた経済的負担が大きくなっている。

北海道教育委員会は、現行の「新たな高校教育に関する指針」に代わる、学級定員数の削減による少人数指導などを含めた次世代を見据えた高校づくりのための「新たな指針」を示した上で空知南学区における定員調整の方向性を議論することとし、その上で希望する全ての子どもに高校教育にふさわしい教育環境を保障し子どもたちに希望を与え、地域の将来も見据えた配置計画を策定すべきである。

よって、今回示された「公立高等学校配置計画案（令和4年度～6年度）」を見直すことを強く求めるものである。

以上のとおり決議する。

令和3年6月 日

岩見沢市議会